

学会員（教員）研究動向 [2024.4～2025.3]

名前	種別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
秋葉 武	論文(単著)	「ESG 投資と日本の NPO/NGO」(『立命館産業社会論集』第60巻第3号) 81-90頁	2024.12
	研究発表等 (単独)	「NPO の組織基盤強化——子ども支援 NPO を事例として——」(日本経営診断学会第210回関西西部会)	2024. 8
	研究発表等 (単独)	「NPO の組織基盤強化——子ども支援 NPO を事例として——」(日本経営診断学会第57回全国大会)	2024.10
	その他 (単独講演)	韓国と日本の市民社会（2024日韓市民未来対話：ソウル大学日本研究所主催）	2024.12
有賀 郁敏	論文(翻訳)	(単独訳)「ミヒャエル・クリューガー 「イマヌエル・カント — (身体)教育に関する考察—」」(『立命館産業社会論集』第60巻第2号)131-142頁	2024. 9
	論文(単著)	「カントの身体教育に関するミヒャエル・クリューガーの 歴史評価について」(『立命館産業社会論集』第60巻第2号)143-153頁	2024. 9
	その他(単著)	「ドイツ連邦議会選挙2025とスポーツ政策」(『さんしゃ Zapping』Vol.39 No.2 (通巻207号))29-42頁	2025. 3
	その他(単著)	「二分法的世界観を疑う —歴史・知性・ケア—」(『卒業論文集—余暇社会の歴史と現代—』立命館大学産業社会学部有賀郁敏ゼミ) 1-10頁	2025. 3
飯田 豊	著書(単著)	『こころをよむ——メディアの歴史から未来をよむ』(NHK 出版) 1-192頁	2024. 9
	著書(分担執筆)	『広告文化の社会学 ——メディアと消費の文化論』(宮崎悠二・藤嶋陽子・陳海茵編著，北樹出版)84-93頁	2024.10
	論文(単著)	「安部公房とワープロ ——一九八〇年代における技術への問い」(青土社『現代思想』2024年11月臨時増刊)268-276頁	2024. 9
	論文(単著)	「幻のライブサイト／パブリックビューイング ——東京2020オリンピック・パラリンピックにおける構想・準備過程に関するメディア論的研究」(飯田豊・立石祥子，『立命館産業社会論集』第60巻第2号)65-82頁	2024. 9
	論文(共著)	「(対談)「昭和四〇年代論」の可能性 ——大阪万博前後の社会相」(福岡良明・飯田豊，万博学会研究会編，思文閣出版『万博学／Expo-logy』第3号)57-76頁	2024.12
	論文(単著)	「ラジオの歴史と未来 ——放送100年に振り返る歩み」(日本新聞協会『新聞研究』2025年3月号)60-63頁	2025. 3
	研究発表等 (単独)	「万博とメディアの関係史——大阪万博におけるマスメディア企業の関わりを中心に」(関西地区マスコミ倫理懇談会)	2025. 2
	その他(単著)	「輿論主義の復権のために——佐藤卓己著『あいまいさに耐える——ネガティブ・リテラシーのすすめ』を読んで」(日本民間放送連盟『民放 online』)	2024.10
	その他(単著)	「課せられたローカル局の歴史的検証 —— KBC の歩みと民放五大系列化の功罪 (KBC グループホールディングス編『ローカル局の戦後史 ——九州朝日放送の70年』(ミネルヴァ書房，2024年)書評)」(読書人『週刊読書人』) 6 頁	2024.11
	その他(単著)	「〈全体〉と〈部分〉の関係性を揺さぶる」(太田市美術館・図書館『太田フォトスケッチ vol.6 ささやかな話、確かなこと——他人にはまったく意味を持たないかもしれない、けれどあなたにとっては切実な意味を持つ何か (以下【それ】)』展覧会カタログ)	2025. 1

飯田 豊	その他(単著)	「放送100年 原点から未来を創造する契機に」(朝日新聞社『朝日新聞』2025年2月15日朝刊)17頁	2025. 2
	その他(単著)	「マスメディアはなぜ報じない？ 求められる「伝えないことの説明責任」」(日本民間放送連盟『民放 online』)	2025. 3
	その他(単著)	「視標「放送100年」 経験生かして信頼回復を／ネット表現の礎に」(共同通信配信記事)	2025. 3
	その他(単独)	「【マンガ】 ソーシャルメディアの次に来るメディアは何ですか？メディア論研究者の飯田豊教授に聞いてきた」(インプレス『Web 担当者 Forum』)	2025. 3
	その他 (共同講演)	「今のゼミはこれでいいのだろうか——変化する大学、メディア環境のなかでの学びの共同体のゆくえ」(伊藤高史・劉雪雁・畑仲哲雄・飯田豊・水越伸, 第4回メディアスタディーズ・フォーラム)	2024. 4
	その他 (共同講演)	「メディアで変化する、都市を舞台にしたアートフェスティバル」(浅見和彦・飯田豊・ゴッドスコピーオン・吉田山・細川麻沙美, CCBT COMPASS 2024)	2024. 5
	その他 (共同講演)	「テレビドキュメンタリーの未来を語る」(森達也・丸山友美・飯田豊)	2024.11
石田賀奈子	研究発表等 (共同)	「誰のためのアドボカシーか～ ACEs から見えてくるものからの検討～」(日本子ども虐待防止学会 (第30回学術集会：かがわ大会)さんポートホール高松)	2024.12
	研究発表等 (共同)	「児童養護施設等における子どもの発達を見つめる養育の重要性を心理職の役割と養育者との連携から考える」(日本子ども虐待防止学会 (第30回学術集会：かがわ大会)さんポートホール高松)	2024.12
石田 智巳	著書(共著)	『日本の民主教育2024』(森敏生・鎌田克信・金井多恵子・野井真吾・石田智巳他大月書店)194-196頁	2025. 1
	研究発表等 (共同)	「体育授業における矛盾とその克服を目指す学習 2ーバレーボール学習で起こる矛盾ー」(石田智巳・制野俊弘・加登本仁, 日本教科教育学会50回大会)	2024.11
市井 吉興	著書(監修)	『全スケートボード史』(市井吉興・住田翔子・塩見俊一・豊島誠也, 晶文社) 1-377頁	2024. 9
	研究発表等 (単独)	「スケートボードのグローバルヒストリーを描く試み:「文化帝国主義」を乗り越えるスケートボード文化とは」(日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会)	2024. 8
伊東 寿泰	論文(単著)	“Applying Modern Literary Methods to Ancient Text such as the Gospel of John: In the Case of Famous Johannine Irony” (<i>Annual of the Japanese Biblical Institute</i> , Volume 49) 6-26頁	2025. 3
上原 徳子	論文(単著)	「「負心」と「女侠」—『警世通言』卷三十二「杜十娘怒沈百宝箱」について」(奈良女子大学日本アジア言語文化学会叙説52)147-163頁	2025. 3
	研究発表等 (単独)	「2024 年度大会企画 「三言二拍」研究の現状とその可能性について」(コーディネーター: 上原徳子 (立命館大学)・発表者: 廣澤裕介 (南山大学・非)・笠見弥生 (高崎経済大学)・千賀由佳 (龍谷大学)・大賀晶子 (京都府立大学・非), 中国古典小説研究会2024年度大会)	2024. 8

上原 徳子	研究発表等 (単独)	『『中国古典小説のここが面白い!』第1回「研究者、押し作品を語る」:『紅樓夢』』(パネリスト)上原徳子・竹内真彦・井口千雪・二階堂善弘・中塚亮・上原究一・松浦智子・佐高春音・小松謙, 中国古典小説研究会2024年度関西例会 特別企画・公開シンポジウム 『中国古典小説のここが面白い!』第1回「研究者、押し作品を語る」)	2025. 3
漆原 良	論文(単著)	「コーディネーショントレーニングは何を改善するのか」(現代スポーツ研究8)30-43頁	2025. 3
	研究発表等 (単独)	「下肢への触覚付加による運動学習への影響」(細野裕希・漆原良, 日本生理人類学会第85回大会)	2024. 6
	研究発表等 (共同)	「就学前のコーディネーショントレーニングが小学校入学後の行動に及ぼす影響 ―映像視聴中の行動分析を用いた検討―」(漆原良・細野裕希・鏡原崇史, 日本教育実践学会第27回研究大会)	2024.10
	研究発表等 (単独)	「福島県白河市における「らく楽健康体操クラブ」事業の効果検証:高齢者へのコーディネーショントレーニングの効果」(漆原良・細野裕希・小野覚久, 第19回日本応用老年学会大会)	2024.11
江口 友朗	研究発表等 (単独)	「アジア多国間比較に見る史的状況と今後の展開について」(社会科学の方法論と理論・分析を架橋するための研究会)	2024. 7
呉 世雄	著書(共編者 (共編著者))	『現代韓国の福祉事情ーキャッチアップか、新しい挑戦か』(金成垣・金圓景・呉 世雄, 法律文化社)	2025. 1
	研究発表等 (単独)	「統合ケアシステムの構築における Co-production の意味と価値」(2024年韓国地域社会福祉学会秋季学術大会)	2024.10
	研究発表等 (単独)	「韓国における LARA 救援活動の展開に関する基礎研究 ―史実のエビデンスを求めて―」(呉世雄・西田恵子, 日本社会福祉学会第72回秋季大会)	2024.10
	研究発表等 (単独)	「アメリカにおける LARA 救援活動の組織化及び運営と平和活動の同期化 ― Clarence Pickett の軌跡を軸とした考察 ―」(西田恵子・呉世雄, 日本社会福祉学会第72回秋季大会)	2024.10
	研究発表等 (単独)	“Resistance to Change in Japan’s Social Welfare Organizations: Challenges and Future Directions” (KASWEA Korean Research Talk forum)	2025. 3
大野 威	論文(単著)	「1840-1857 ニューゼalandにおける世界最初の8時間労働の実現:イギリス、アメリカ、オーストラリアとの比較」(『立命館産業社会論集』第60巻第3号)1-13頁	2024.12
	その他 研究活動	「映像の世紀バタフライエフェクト ラストベルト アメリカ 忘れられた人々」(『NHK』取材協力)	2024.12
	その他 研究活動	「内閣府 令和5年度 女性の登用拡大と企業における経済的メリット等に関する調査研究 報告書」(ヒアリング, p. 26, p. 59)	2024.12
岡田 桂	著書(監修)	『わたしたち、体育会系 LGBTQ です: 9人のアスリートが告白する「恋」と「勝負」と「生きづらさ」』(田澤 健一郎・岡田 桂)	2024. 7
	論文(単著)	「男性性をセクシュアリティから見つめ返す:スポーツ/近代的男性性のクイア理論による再検討」(現代スポーツ評論 (50))30-44頁	2024. 5
岡田 まり	研究発表等 (共同)	「スーパービジョン養成プログラムのモデル開発ー現在までの成果と今後の方向性ー」(岡田まり・片岡靖子・潮谷恵美・野村豊子, 第32回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(栃木大会))	2024. 6

岡本 尚子	研究発表等 (共同)	「筆記時のメモ媒体の違いが記憶と生理指標に与える影響 —タブレットとノートへの筆記時の比較—」(岡本尚子・吉岡篤志・神島遼人・椿裕尊, 第42回日本生理心理学会)	2024. 5
御旅屋 達	論文(単著)	「「アセットの贈与交換モデル」としての高校新卒採用」(社会政策学会社会政策 16 (3))141-152頁	2024.12
	研究発表等	「子ども・若者総合相談センターの運営の実態と課題——全国調査の結果から」(社会政策学会第149回大会)	2024.10
角田 将士	著書(共著)	「『中学社会 地理／歴史／公民的分野』(検定教科書)」(吉川真司・野間敏克・水内俊雄他, 日本文教出版)	2025. 2
	著書(分担執筆)	「『社会科教育事典 第3版』」(日本社会科教育学会編, ぎょうせい)62-63, 76-77頁	2024. 4
	著書(分担執筆)	「『探究の学びを拓く NIE —多様性時代の確かな指針として—』」(日本 NIE 学会編, 京都新聞出版センター)128-133頁	2024. 8
	論文(単著)	「新しくなった歴史教科書は授業にどう生かせる?」(角田将士・田口紘子, 日本文教出版編『社会科 NAVI』(37))	2024. 4
	論文(単著)	「多様な考えを引き出す! 主体性を育てる発問づくり」「『知識操作』を意識した発問づくりで多様性と主体性を引き出す授業を」(明治図書『社会科教育』781) 4-9 頁	2024. 5
	論文(単著)	「高等学校における学習指導と主体性評価の視点と方法—日本史を対象とした清水智貴実践の特色と課題—」(日本教材文化研究センター編 調査研究シリーズ91『主体性の評価に焦点を当てた社会系教科目の実践研究—個別最適な学びと社会とつながる協働的な学びをどのように実現するのか—』)40-54頁	2024. 9
	論文(単著)	「中学校社会科歴史教科書コーパス形態素解析による頻出語に関する研究—『なぜ』の頻出度とその文脈の検討—」(深谷圭助・渡部竜也・角田将士・石原千秋, 中部大学現代教育研究所編『現代教育学研究所紀要』(18))37-48 頁	2024. 9
	論文(単著)	「授業計画力と授業実践力を高めるアプローチ—フィードバックと活かし方「フィードバックのもつ教師と生徒の対話構造を意識して授業改善を図る」」(明治図書『社会科教育』790)26-29頁	2025. 2
	論文(単著)	「『歴史的な見方・考え方』を視点にした中学校社会科教科書のコーパス分析—歴史的分野における『見方・考え方を働かせた学習』の効果的な指導に向けて—」(角田将士・深谷圭助・渡部竜也・石原千秋, 立命館大学教職教育推進機構編『立命館教職教育研究』(12)) 1-10頁	2025. 2
	論文(単著)	「中学校社会科歴史教科書コーパス形態素解析による頻出語に関する研究(2)—「どのように」の頻出度とその問いの文脈の検討—」(深谷圭助・渡部竜也・角田将士・石原千秋, 中部大学現代教育学部編『現代教育学部紀要』(17))13-32頁	2025. 2
	論文(単著)	「学術研究としての社会科の批判的省察と新研究への展開」(永田忠道・角田将士, 全国社会科教育学会編『社会科研究』(102)) 1-12頁	2025. 3
	論文(単著)	「『歴史的な見方・考え方』と歴史的分野の授業づくり」(日本文教出版『中学社会 歴史的分野 教師用指導書 学習指導編』)28-29頁	2025. 3
	論文(単著)	「社会系教科における魅力的な NIE 実践の成立条件—『探究の学びを拓く NIE —多様性の中の確かな指針として—』のレビューを通して—」(日本 NIE 学会編『日本 NIE 学会誌』(20))129-132頁	2025. 3

角田 将士	研究発表等 (単独)	「社会科授業の社会的意義」(進麻実・屋田加菜・岡義宏・角田将士, 全国社会科教育学会第73回全国研究大会 (自由研究発表))	2024.10
	研究発表等 (単独)	「日本の中学校社会科教科書のコーパスによる社会科語彙分析と指導法改善に関する研究」(深谷圭助・渡部竜也・角田将士, 全国社会科教育学会第73回全国研究大会 (自由研究発表))	2024.10
	研究発表等 (単独)	「『探究の学びを拓く NIE —多様性の中の確かな指針として—』出版のねらい」(日本 NIE 学会第21回大会 (ミニシンポジウム))	2024.11
	その他 (単独講演)	「学校で戦争を教えるということ—「ポスト戦争体験時代」を見据えた授業づくりの視点—」(2024年度 第1回広島 SDGs コンソーシアム研修会)	2024. 7
	その他 (単独講演)	「あらためて考える地歴・公民科の見方・考え方」(令和6年度 広島県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会研修会)	2024. 9
	その他 (単独講話)	「学び問い続ける姿を育てる歴史的分野の単元構想と授業づくり—京都市中社研の提案の意義とさらなる飛躍に向けて—」(第30回近畿中学校社会科教育研究大会京都市大会 分野別研究協議 指導助言)	2024.11
	その他 (単独講演)	「未来の創り手を育てる社会科授業—「戦争と平和」をテーマにして—」(第30回近畿中学校社会科教育研究大会京都市大会)	2024.11
	その他 (単独講話)	「エージェンシーの育成・ウェルビーイングの実現に向けて: 社会科固有の教育的役割を意識した授業づくりを」(2024年度滋賀県甲賀市立水口小学校自主研究発表会)	2025. 2
	その他 (単独講話)	「未来の創り手を育てる社会科授業—ポスト戦争体験時代を見据えた「戦争と平和」をテーマにして—」(2024年度関西学院初等部社会科部研修会)	2025. 3
柏木 智子	著書(共編者 (共編著者))	『新しい学校を創る教育経営—学校の見方を変える。実践を記述する。』(日本教育経営学会実践推進委員会・安藤知子・高谷哲也・朝倉雅史・一之瀬敦幾・柏木智子・辻野けんま・長倉守・石崎ちひろ・吉田尚史編著, 晃洋書房 「『実践』概念の拡張と実践記述の保障」)138-150頁	2025. 2
	著書(分担執筆)	『Society5.0と揺らぐ公教育—現代日本の教育政策／統治』(日本教育政策学会企画 児美川孝一郎・横井敏郎, 晃洋書房 「『個別最適な学び』と義務教育—審議会等での論点と課題」)158-174頁	2024. 8
	著書(分担執筆)	『貧困・孤立からコモンズへ—子どもの未来を考える』(青砥恭・さいたまユースサポートネット編, 太郎次郎社エディタス 「学習支援とケア—貧困対策としての学校の役割」)244-268頁	2024.11
	論文(単著)	「『個別最適な学び』と義務教育—審議会等での論点と課題」(日本教育政策学会日本教育政策学会年報 (31))102-110頁	2024. 7
	論文(単著)	「貧困家庭の児童生徒を支える生徒指導」(教育出版教育展望 (9月))25-31頁	2024. 9
	論文(単著)	「大学進学時の地域移動の規定要因と学生生活への影響に関する基礎的分析—「生徒タイプ」・社会関係資本・学生生活の充実度・資質と能力に着目して」(学校改善研究紀要 (7))1-13頁	2025. 3
	研究発表等 (単独)	「非認知能力育成を目指す公立小学校のサクセスフル・リーダーシップに関する事例研究」(柏木智子・西野倫世・小野まどか・矢田匠, 日本教育経営学会第64回大会自由研究発表)	2024. 6
	研究発表等	「実践事例をめぐる研究倫理と良い記述の保障」(日本教育経営学会第64回大会実践研究フォーラム)	2024. 6
	その他 (単独講演)	「子どもの貧困と「ケアする学校」づくりから考える学習支援」(箕面ソーシャルドリックス Vol.3)	2024. 8
	その他 (単独講演)	「すべての子どもが安心できる居場所となる学校園所をめざして」(京丹後市保幼小中一貫教育研修会)	2024. 8

柏木 智子	その他 (単独講演)	「困難を抱える子どもとケアする学校・地域づくり」(近畿弁護士会連合会夏季研修)	2024. 9
	その他 (単独講演)	「貧困・ヤングケアラー・外国ルーツの子どもとケアする学校・地域づくり—事務職員の役割—」(養父市教育研修所事務職員部会研修)	2024.11
	その他 (単独講演)	「子どもの貧困と「ケアする学校」づくり」(立命館学校教育研究会秋季大会2024)	2024.11
	その他 (単独講演)	「子どもの貧困と「ケアする学校」づくり—民主的で公正な社会の形成に向けて—」(令和6年度教育課題別研修 人権教育研修 貧困問題)	2024.11
	その他 (単独講演)	「困難を抱える子どもとケアする学校・地域づくり」(日弁連貧困問題対策本部勉強会)	2024.12
	その他 (単独講演)	「多様な子どもたちとケアする学校—緩やかなつながりの時代へ—」(第59回 阪神地区公立小中特別支援学校事務研究大会)	2025. 2
	その他 (単独講演)	「社会におけるこどもの人権—地域を主体としたコミュニティづくり」(姫路市立校区分人権教育研修会)	2025. 2
加藤 潤三	論文(共著)	「コロナ禍における地方移住者の心理的傾向」(加藤潤三・前村奈央佳, 立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第60巻第3号)27-44頁	2024.12
加藤 雅俊	論文(単著)	The theoretical importance of exceptional cases: social protection and its transformations in Japan and Australia in comparative welfare state research" (Policy Press/Social Policy Review 36)149-171頁	2024. 7
	論文(単著)	「オーストラリア福祉国家の変容から考える「家族主義／家族主義レジーム」概念の有効性と課題：福祉国家論の再構築に向けて」(立命館大学人文科学研究紀要 143)99-135頁	2025. 3
	論文(単著)	「書評：Andrew Gamble : Can the Welfare State Survive? (Polity Press, 2016)」(立命館大学人文科学研究紀要143)151-159頁	2025. 3
	論文(単著)	「書評：田中拓道『福祉国家の基礎理論：グローバル化時代の国家のゆくえ』(岩波書店, 2023年)」(社会保障研究 9 (4))477-481頁	2025. 3
	研究発表等 (単独)	「家族主義／家族主義レジーム」概念からみるオーストラリア福祉国家の変容」(日本政治学会2024年度研究大会)	2024.10
	研究発表等 (単独)	「分科会 E3 (批判的政治学会と社会科学方法論—実証主義的な政治学の何をどう批判するのか—) 討論者コメント」(日本政治学会2024年度研究大会)	2024.10
金澤 悠介	論文(単著)	「過去の社会運動に対する否定的評価は政治参加にどう影響するのか」(坂本治也・富永京子・金澤悠介, ノンプロフィット・レビュー 23 (1+2)) 47-57頁	2024. 5
	研究発表等 (単独)	"Examining the response heterogeneity of survey questions by latent class analysis: The case of generalized trust question" (第52回行動計量学会大会)	2024. 9
金山 千広	論文(共著)	「パラ水泳レース観戦後に中学生・高校生水泳選手が得た定性的な障害理解の解釈 (査読付)」(瀬川海・大平雅子・奥田鉄人・金山千広 体育・スポーツ科学33)13-22頁	2024. 8
	論文(共著)	「インクルーシブな幼児体育の創造に向けて—幼児体育という用語の観点から—」(大橋祐介・金子勝司・金山千広 大阪体育大学教育学研究 9)57-69頁	2025. 3
	その他報告書 (共著)	「令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト 特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行支援事業 成果報告書」(文部科学省成果報告書 神戸市教育委員会)	2024. 4

金山 千広	研究発表等 (単独)	「神戸市における3つのモデル事業を対象とした参加者による評価」(兵庫体育・スポーツ科学学会第35回学会大会)	2024. 5
	研究発表等 (共同)	“A Study on Inter-organizational Relations between Japanese Para-sports Associations.” (Yu Kodama, Chihiro Kanayama(International Symposium of Asian Society for ASAPE 2024)	2024. 8
	研究発表等 (単独)	“Typology of Sport Facilities for People with Disabilities in Japan Based on Differences in Responses to the COVID-19 Pandemic: Adaptations after the 2021 Tokyo Paralympic Games.” (International Symposium of Asian Society for ASAPE 2024)	2024. 8
	研究発表等 (共同)	「バラスポーツ競技団体の協力的関係の志向性」(児玉友・瀬川海・金山千広 日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会)	2024. 8
	研究発表等 (単独)	「特別支援学校運動部活動モデル事業における知的障害のある生徒の評価」(日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会)	2024.12
金子 史弥	著書(共編者 (共編著者))	『＜メガイベントの遺産＞の社会学——二〇二〇東京オリンピックは何を生んだのか』(石坂友司・小澤考人・金子史弥・山口理恵子, 青弓社)	2024.10
	論文	「ポストロンドン2012オリンピック・パラリンピックの英国におけるスポーツ政策の展開」(『立命館産業社会論集』第60巻第2号)83-102頁	2024. 9
	論文	「現地からみたパリ2020オリンピック・パラリンピック——東京2020大会との比較から」(創文企画『現代スポーツ評論』(51))134-144頁	2024.11
	論文(単著)	「大ロンドン市におけるスポーツ政策の展開 —「グローバル・シティにおけるスポーツ」研究序説—」(『立命館産業社会論集』第60巻第4号)15-32頁	2025. 3
	研究発表等	“The Volunteer Legacy of the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games: Is Volunteering at the Tokyo 2020 Just “Once-in-a-life time” Experience?” (32nd European Sport Management Conference)	2024. 9
	研究発表等	“TEAM JAPAN and the Paris 2024 Olympic Games” (East Asian Sport Sociology Forum 2024)	2024.10
	その他研究 活動(共同)	「『スポーツ社会学事典』(丸善出版, 2025年)編集委員 (担当項目「政策」)」	2022. 4 – 2025. 3
川崎 聡大	著書(単著)	『ディスレクシア・ディスグラフィアの理解と支援: 読み書き困難のある子どもへの対応』(学苑社)	2024. 9
	著書(単著)	『発達障害の子どもに伝わることば』(SBクリエイティブ)	2024.10
	著書(監修)	『「中学校」通級指導教室担当の仕事スキル』(川崎聡大監修・三富貴子著, 明示と初)	2024. 4
	論文(単著)	“Neuroregulatory Effects of Microcone Patch Stimulation on the Auricular Branch of the Vagus Nerve and the Prefrontal Cortex: A Feasibility Study.” (Akihiro Kawasaki, Yutaka Matsuzaki, Taku Kawada, Journal of clinical medicine 13(8))	2024. 4
	論文(共著)	「読み書きが困難な子供をもつ親への親支援プログラムの効果」(宮崎 光明・宮崎 美江, ・川崎 聡大・宮 一志, 一般社団法人 日本LD学会 LD 研究 33(3))241-255頁	2024. 9
	論文(共著)	「「正しく整った文字」を書くことの発達と1年後の学力は関連するか—2種類の漢字採点基準における漢字書字成績と学力の関係についての縦断的検討—」(荻布優子・川崎聡大, 長崎大学教育学部長崎大学教育学部紀要11) 111-119頁	2025. 3

川崎 聡大	研究発表等 (単独)	“Impact of Variations in Autonomic Activity on the Dorsolateral Prefrontal Cortex -Variations Induced by Microcone Patches and External Environmental Changes-” (Neuroscience2024)	2024.10
	その他 (単独講演)	「読み書き・コミュニケーションに困難のある子どもの支援」(第三回・第四回発達障害専門研修)	2024.10
権 学俊	論文	「朝鮮人特攻隊員の表象と顕彰」(『歴史評論』2024年9月号(893号))41-52頁	2024.9
	その他研究活動(単独)	「戦後」終結 強いた沖縄国体 戦争責任 県民議論呼ぶ」(『毎日新聞』)	2024.5
	その他研究活動(単独)	「開催基準 縛られ疲弊 「渡り鳥」確保に巨費」(『毎日新聞』)	2024.5
	その他研究活動	「国スポーツ不要？ 渦中の九州 経費負担、意義に疑問の声」(『西日本新聞』)	2024.5
	その他研究活動	「開催自治体の負担減議論」(『日本経済新聞』)	2024.6
	その他研究活動	「国体」と戦後社会」(『信濃毎日新聞』)	2024.7
黒田 学	論文(共著)	「カンボジアにおける障害者施策の実情—プノンペン訪問調査報告」(黒田学・小西 豊・野村 実, 人間発達研究所通信 (178))9-15頁	2024.9
	その他 (単独講演)	「バリアフリーと障害—平和・多様性・包摂—」(同志社国際高校3年生探究授業)	2024.10
	その他 (単独講演)	「バリアフリーと合理的配慮に根ざした地域づくり・人づくりに向けて」(きょうされん第47回全国大会 IN 滋賀, 分科会「地域・人づくり」)	2024.11
近藤 和都	著書(分担執筆)	『戦後映画の生き残り戦略——変革期の一九七〇年代』(谷川建司)223-247頁	2024.4
	著書(分担執筆)	『アニメと場所の社会学:文化産業における共通文化の可能性(シリーズ●文化の社会学のフロンティア1)』(永田大輔・松永伸太郎・杉山怜美)	2024.7
斎藤 真緒	著書(単著)	『イギリスの学校ではどんな取り組みをしているのか?』(学事出版)	2024.4
	著書(単著)	『ジェンダーと家族』(日本終末期ケア協会)	2024.6
	著書(分担執筆)	『ケアするーケアはジェンダーから自由になれるか』(井藤公雄・牟田和恵・丸山里美, 世界思想社)	2025.1
	研究発表等 (単独)	「『ヤングケアラー』問題の社会的構築のゆくえーケアラー支援の射程と課題ー」(第46回唯物論研究会大会)	2024.11
	研究発表等 (共同)	“Awareness and policy responses to ‘young carers’ in Japan: changes in the last decade” (Matusda, R・and Saito, M., International Postgraduate and Academic Conference 2025)	2025.2
崎山 治男	論文(単著)	「感情労働における自律性のあり方:ホクシールドを巡る二つの論争を通して」(『現代社会学理論研究』19号)65-77頁	2025.3
	研究発表等 (単独)	「感情労働における自律性のあり方:ホクシールドを巡る二つの論争を通して」(日本社会学理論学会第19回大会)	2024.9
桜井 啓太	論文(単著)	「桐生市生活保護違法事件全国調査団による調査・分析から見えてきた実態」(東京:自治体研究社住民と自治 = Jumin to jichi monthly / 自治体問題研究所 編 (740))11-14頁	2024.12
	論文(単著)	「大学生等の貧困に日本の福祉行政はなにをしてきたか」(賃社編集室賃金と社会保障 = Wage & social security (1864))11-13頁	2024.12

桜井 啓太	論文(単著)	「桐生市の事件から考える、生活保護行政の現在」(大阪：大阪福祉事業財団；2000- 福祉のひろば / 総合社会福祉研究所 編 298)26-29頁	2025. 1
	研究発表等 (単独)	「行政区単位の貧困・低所得制度の捕捉率推計—沖縄地域を例に—」(貧困研究会 第17回研究大会)	2025. 1
櫻井 純理	論文	「生活困窮者支援における地域レベルでの就労支援」(公益財団法人生活協総合研究所生活協同組合研究 (581))22-29頁	2024. 6
	論文	「各種雇用サポートセンター (就労支援拠点) の設立」(大阪社会運動協会大阪社会労働運動史第10巻10)606-613頁	2024. 7
	論文	「民間支援団体の多様化・多極化」(大阪社会運動協会大阪社会労働運動史第10巻 10)614-621頁	2024. 7
	論文(単著)	「地方自治体が雇用政策に取り組む意義」(大阪市政調査会『市政研究』225号) 6-9 頁	2024.10
	研究発表等 (単独)	「地方自治体における就労／訓練機会の開拓—事業主の関与をいかに引き出すか」(長松奈美江・筒井美紀・櫻井純理, 社会政策学会第149回大会)	2024.10
鎮目 真人	著書(分担執筆)	「(事典・辞書)『公共政策学事典』」(丸善出版)504-505頁	2024.11
	論文(共著)	「韓国・基礎年金における発展の方向性—基礎年金と国民年金との関係性を考慮に入れて—」(崔玉金・鎮目真人, 『立命館産業社会論集』第60巻第4号) 1-14頁	2025. 3
	研究発表等 (単独)	“Old Age Income Mixes in East Asia: Compressed Modernity with Institutionalized Tradition” (The 20th East Asian Social Policy Network & the 30th Foundation for International Studies of Social Security Joint International Conference)	2024. 6
	研究発表等 (単独)	“Pension Reform in Japan: Balancing Sustainability and Sufficiency” (The 18th Pension Experts Meeting In the Asia-Pacific Region)	2024. 6
	研究発表等 (単独)	“The Strategy for Reforming Pension systems in Japan: Focus on the 2025 Reform” (第18回社会保障国際論壇)	2024. 9
	研究発表等 (単独)	“Old-Age Income Mixes in East Asia: Determinants of Public Pension Development” (社会政策学会第149回全国大会)	2024.10
	研究発表等 (単独)	「年金制度における不人気改革をめぐるポリティクスと年金改革の課題——2004年年金改革から2025年年金改革へ」(日本医療福祉政策学会2024年度 (第8回)研究大会)	2024.11
	研究発表等 (単独)	“Japanese Pension Reform in 2025 and Beyond: From 2004 to 2025 reform” (2024 Korean Social Security Association Conference: Social Policies for an Aging Society)	2024.12
篠原 郁子	論文	「書評「本当は間違っている育児と子どもの発達にまつわる50の迷信」」(金剛出版臨床発達心理学 24 (144) (6))772-773頁	2024.11
	研究発表等 (単独)	「子どもの心は 大人と育つ —アタッチメント理論で考える子どもの心・大人の心—」(日本乳幼児教育・保育者養成学会乳児保育部会, 乳児保育フォーラム第2回)	2024. 7
	研究発表等 (単独)	“Comparison between Parents' Attribution of Mental States to Infants and Geometric Shapes Animation” (Ikuko SHINOHARA・Yusuke MORIGUCHI, 33rd International Congress of Psychology)	2024. 7
	研究発表等 (単独)	「研修委員会企画 実践セミナー A 「臨床発達心理士に求められる素養や能力 ～自分の成長に必要な研修を考えてみよう～」話題提供」(日本臨床発達心理士会第20回全国大会)	2024. 8

篠原 郁子	研究発表等 (単独)	「小中接続期の社会情緒的能力の育ちと学校環境 ―縦断調査研究に基づく検討― (企画)」(篠原郁子・利根川明子, 日本教育心理学会第66回総会)	2024. 9
	研究発表等 (単独)	「児童期における親・教員へのアタッチメントと社会情緒的能力の発達 (会員企画自主シンポジウム「心理学から考える『みんなで子育て』:子どもと大人の生活と発達への多面的アプローチ)」(篠原郁子・利根川明子, 日本発達心理学会第36回大会)	2025. 3
	研究発表等 (単独)	「会員企画自主シンポジウム「小中接続期の社会情緒的能力の発達と環境:縦断調査研究に基づく検討」企画」(篠原郁子・利根川明子, 日本発達心理学会第36回大会)	2025. 3
	その他研究 活動(単独)	紀伊國屋書店×光文社新書ビジネス講座 「大人と子どものころを思う」	2024. 4
	その他研究 活動(単独)	shiRUto 記事掲載:あなたは、子どもの「育ち」を支える大人ですか? いま社会に必要な「アタッチメント関係」とは	2025. 3
	その他 (単独講演)	令和6年度島根大学医学部附属病院子どものころ診療部研修会「子どものアタッチメント欲求に対する養育者の視点」(令和6年度 島根大学医学部附属病院 子どものころ診療部研修会『親子を支えるみんなに知ってほしいアタッチメントの理論と支援』)	2024. 8
	その他 (単独講演)	生涯発達と社会参加を支援する子どもリサーチセンター オンラインセミナー「赤ちゃんの心を 探す・感じる・味わう アタッチメントとメンタライジング入門」(生涯発達と社会参加を支援する子どもリサーチセンター オンラインセミナー)	2024.11
下條 正純	論文(単著)	「ライトノベルの発話文末における疑問符」(立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第60巻第3号)15-26頁	2024.12
住家 正芳	論文(単著)	「日本僧釈種楳仙と林文慶」(『立命館産業社会論集』第60巻第3号)89-101頁	2024.12
住田 翔子	著書(共訳)	『全スケートボード史』(晶文社)	2024. 9
	著書(分担執筆)	『オセアニア文化事典』(オセアニア文化事典編集委員会, 丸善出版)456-457頁	2024.10
	論文(単著)	「廃墟の記憶のドキュメンテーション——秋田における廃墟へのまなざしに注目して」(立命館大学国際言語文化研究所立命館言語文化研究 36 (3)) 63-75頁	2025. 3
孫 片田 晶	論文	「連帯と位置性——ウトロの運動における深い関わり合いから」(『移民研究年報』(30))	2024. 6
高橋 顕也	論文(単著)	“Society Cannot Accelerate:On the Logical onsistency between Sociological Systems Theory and Social Acceleration Theory” (Ritsumeikan Social Sciences Review 60(1))195-206頁	2024. 6
武岡 暢	著書(共著)	『社会学概論——何をどのように考えてきたのか』(武川正吾・佐藤健二・常松淳・武岡暢・米澤旦, 有斐閣)35-50頁	2025. 3
	論文(単著)	「悪質ホストクラブに狙われる女性たち:華やかな世界に潜む闇とは」(nippon.com)	2025. 3
	研究発表等 (単独)	「相対的ディーセントワークとしてのセックスワーク——大阪でのインタビュー調査から」(第97回日本社会学会大会)	2024.11
	その他 (単独講演)	「客引きを見て地域を見ず」(客引き行為等の防止に関する講演会)	2025. 2

竹濱 朝美	論文	「再生可能電力比率60%の達成可能性の検討, 風力発電と蓄電池導入量の試算」(竹濱朝美・歌川学, 第46回 風力エネルギー利用シンポジウム (発表論文集), D4-5 (論文番号 C000079))	2024.11
	研究発表等	「デマンドレスポンスと電気自動車充電, 電力需給バランスにおける柔軟性の効果に関する簡易試算」(竹濱朝美・歌川学, 日本環境学会 第50回研究発表会)	2024. 6
谷原 史	著書(単著)	『「ネット世論」の社会学: データ分析が解き明かす「偏り」の正体』(NHK 出版)	2024. 8
	論文(共著)	“Japan's Twitter Sphere does not Reflect Public Opinions: Classification and Sentiment Analysis by Computational Social Science Methodology” (Tsukasa Tanihara, Yu Odanaka, グローバル・コミュニケーション研究 (13))115-137頁	2024. 4
	論文	「Innovation Nippon 2024 報告書「偽・誤情報、ファクトチェック、教育啓発に関する調査」」(国際大学 GLOCOM)	2024. 4
	論文	「Innovation Nippon 2024 報告書「生成 AI と日本」」	2024. 6
	論文(共著)	“Breaking the spiral of silence: News and social media dynamics on sexual abuse scandal in the Japanese entertainment industry” (Tsukasa Tanihara, Taichi Murayama, Mitsuki Irihara, Mitsuo Yoshida, Fujio Toriumi, Kunihiro Miyazaki, PLOS ONE 19(6)) e0306104-e0306104	2024. 6
	論文(単著)	「潮目が変わった SNS と選挙 X を分析、「ネット世論」研究者の驚き」(朝日新聞 Re: Ron)	2024.11
	論文(単著)	「ネット世論は選挙に影響したのか「信じたものを信じる」が深める対立」(時事通信 時評・オピニオン)	2024.12
	論文(単著)	「X と重なった、衆院比例「勝ち具合」ネット上の「濃い」世論」(朝日新聞「にじいろの議」)	2024.12
	論文(共著)	“An analysis of literacy differences related to the identification and dissemination of misinformation in Japan” (Shinichi Yamaguchi, Hidetaka Oshima, Tomoaki Watanabe, Yukiko Osaka, Tsukasa Tanihara, Eri Inoue, Shinnosuke Tanabe, Global Knowledge, Memory and Communication 74(11)) 121-139頁	2025. 1
	論文(単著)	「やさしい経済学 (連載全 9 回)「新たなメディアと世論」」(日本経済新聞)	2025. 3
	研究発表等 (単独)	「AI の ELSI に対して社会学は何かができるか? : 人々と AI の関係を定量的に記述する」(第72回関東社会学会大会)	2024. 6
	研究発表等 (単独)	「2024年における選挙とネットメディアの関係を記述的分析で振り返る」(第4回計算社会科学学会大会)	2024.10
	研究発表等 (単独)	「「ネット世論」とは何なのか? —政治コミュニケーションを中心に」(社会・経済システム学会第43回)	2024.10
	その他 (単独講演)	「SNS × 政治」(谷原つかさ・岡田悟, 民主主義ユースフェスティバル2025 in 神戸)	2025. 3
	その他 (単独講演)	「福祉研究における計算社会科学的アプローチの可能性を探る」(「科研費多様化する社会における福祉体制の動態—日韓台比較研究を通じた理論開発」)	2025. 3
	その他 (単独講演)	「「ネット世論」の影響力: 2024年の選挙で振り返る」(伊勢新聞政経懇話会)	2025. 3
丹波 史紀	著書(単著)	『震災から13年を経て、これからの地域を考える—誰もが尊厳ある地域での暮らしを』(社会福祉法人大阪福祉事業財団 297)44-49頁	2024.12

丹波 史紀	著書(単著)	『災害からの複線型復興—災害などリスクにさらされた際にも尊厳ある暮らしを支える—』(部落問題研究所)38-50頁	2024.12
筒井 淳也	研究発表等 (単独)	「人口減少・地域ごとに異なる対策のあり方：少子化にどう立ち向かうか」(京都商工会議所常議員会)	2024. 5
	研究発表等 (単独)	「東京にとっての少子化問題とは？」(東京商工会議所)	2024. 5
	研究発表等 (共同)	「年齢アイデンティティとその関連要因：年齢カテゴリにもとづく自己認識に注目して」(日本老年社会学会 第66回大会)	2024. 6
	研究発表等 (単独)	「交流はあるが援助はしない？」「中高年期の家族生活についての全国調査(NFRJ-S23)」の分析 (1)」「(第97回日本社会学会大会)	2024.11
富永 京子	著書(単著)	『「ビックリハウス」と政治関心の戦後史——サブカルチャー雑誌がつくった若者共同体』(晶文社)	2024. 7
	論文	「「言葉遣い」から離れた社会運動はいかにして可能か——プロテスト・キャンプとしての高山建築学校の実践から」(現代思想 52 (17))69-77頁	2024.11
	研究発表等	“Housing, Working, and Networking with Neighborhoods: Constructing Autonomy and Reconstructing Community by DIY Activists” (2024 AAG Annual Meeting)	2024. 4
	研究発表等	“Housing, Working, and Networking with Neighborhoods: Constructing Autonomy and Reconstructing Community by DIY Activists” (2024 PGSG PRECONFERENCE)	2024. 4
	研究発表等	“Housing, Working, and Networking with Neighborhoods: Constructing Autonomy and Reconstructing Community by Ex-Activists Youth” (Youth and Student Movements in East and Southeast Asia: From Sunflower/Umbrella Movements to #MilkTeaAlliance and Beyond)	2024. 4
	その他研究 活動(単独)	「考えるヒント」(北海道新聞)	2021. 4 – 2025. 3
	その他研究 活動(単独)	あちらこちらに社会運動 (朝日新聞デジタル)	2024. 6
仲井 邦佳	研究発表等 (単独)	「スペイン語 que の機能について」(日本イスペインヤ学会第70回大会)	2024.10
	その他 (分担執筆)	「授業時間の動向と教学マネジメント」(大学基準協会大学評価研究所『単位制の今日的位相と単位制の実質化に関する調査研究報告書』)33-47頁	2024.11
中井 美樹	研究発表等 (共同)	“Gendered work-family pathways over the life course: A comparison through hidden Markov models” (Nakai, Miki and Pennoni, Fulvia, 第52回日本行動計量学会大会)	2024. 9
	研究発表等	「シンポジウム：ダイバーシティ&インクルージョンの社会学—理論的・方法論的・実践的観点から」コメンテーター (第97回日本社会学会大会)	2024.11
	研究発表等 (共同)	“Diverging Paths: Work and Family Trajectories of Japanese Men and Women” (Fulvia Pennoni and Miki Nakai, Women's rights, stereotypes, questions and opportunities)	2025. 3
中西 純司	著書(編者 (編著者))	『はじめて学ぶスポーツマネジメントの基礎と実践』(みらい)	2024. 4

中西 純司	論文(共著)	「プロスポーツクラブ経営におけるパートナーシップ形成・強化要因の質的分析：オフィシャルパートナー企業の意思決定プロセスに注目して」(山本悦史・中西純司, 日本スポーツ産業学会『スポーツ産業学研究』34 (2))81-103頁	2024. 4
	論文(単著)	「教養としてのスポーツをどう捉え、教えるか」(大西好宣・中西純司・朴ジョンヨン, 日本国際教養学会日本国際教養学会論集 10)187-200頁	2024. 4
	論文(単著)	「スポーツという「不便益」文化と地域スポーツの未来」(日本体育社みんなのスポーツ 46 (5))15-17頁	2024. 5
	論文(単著)	「スポーツマーケティング戦略策定プロセスの動態分析」(立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第60巻第2号) 1-22頁	2024. 9
	研究発表等 (単独)	「生涯スポーツ研究部会【課題 A】 テーマ別シンポジウム なぜ、いま「スポーツの価値」を問うのか？ 一次世代に向けたスポーツ：変わる魅力・変わらない魅力 スポーツという「不便益」文化の継承と人間的可能性の開発」(日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会)	2024. 8
	研究発表等 (共同)	「テニスレッスンにおける「価値共創」場面の視覚化に関する研究—特に、コーチ行動に着目して—」(井口瑛心・中西純司, 日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会)	2024. 8
	研究発表等 (共同)	「テニスレッスンにおける「価値共創」場面の視覚化に関する研究—特に、コーチ行動に着目して—」(井口瑛心・中西純司, 日本体育・スポーツ経営学会第48回大会)	2025. 3
中西 典子	著書(共著)	「『ポスト資本主義時代の地域主義—草の根の価値創造の実践』(担当部分：第2章「公共」の再審と地域社会 —「私」を開き「共」を通じて「公」と向き合う地域社会の実践に向けて)」(真崎克彦・藍澤淑雄編著, 明石書店)32-48頁	2024. 5
	論文(単著)	「野邊政雄著『メルボルンの女性のライフコース—戦後の繁栄の時代に結婚・出産した女性』(東信堂, 2023年)」(日本都市社会学会年報 (42))159-161頁	2024. 9
中西 仁	著書(単著)	『神輿早きはどこからやってくるのか—京都にみる祭礼の歴史民俗学』(昭和堂)	2024.10
中根 成寿	論文(単著)	“Estimation of private-use prices of at-home care services in Japan: Data from a survey of housekeeper employment agencies” (Informa UK LimitedInternational Journal of Healthcare Management) 1- 8 頁	2024. 7
永野 聡	著書(分担執筆)	『34mm の彩り』(Doobu (代表：永野聡) + 立命館大学産業社会学部永野聡ゼミ, 現代企画室)	2024. 5
	論文(単著)	「対話型アプローチを用いた日米における高齢者の人生データの収集に関する試行的研究」(地域活性学会第16回研究大会)	2024. 9
	研究発表等 (単独)	“Research on Development and Effectiveness Verification of Human Resource Development Programs for Green Social Innovation” (14th ISAIA (International Symposium on Architectural Interchanges in Asia))	2024. 9
	その他研究 活動(単独)	「34mm の彩り」(新潟県十日町市)	2024. 7 - 2024.11

永橋 爲介	著書(分担執筆)	『多文化共生社会のために——社会的公正に向けた人権・教育の視点から』 権五定（監修）・鷺山恭彦（監修）・李修京（編集），明石書店 担当部分 第3部第13章「環境的不公正とそのとらえ方」204-208頁， 第3部第13章 Column「差別や排外的な気持ちを人が手放す瞬間」209-210 頁	2025. 3
	その他(単著)	「書評 乾亨『神戸市真野地区に学ぶこれからの「地域自治」』(東信堂コ ミュニティ政策 22)195-199頁	2024.12
	研究発表等	「まちや川、水辺への愛着が喚起する参加型まちづくり」(水研究会)	2024.12
中村 正	論文(単著)	「家族のなかの男性性ジェンダー規範とケア役割—男親塾の実践をもとに して」(公益財団法人生活協同組合研究所生活協同組合研究 (580))23-31頁	2024. 5
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (44) 共同親権と男親塾」(対人援助学会対人援助学マガ ジン 15 (1))20-29頁	2024. 6
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (45)「自発的参加者を対象にした地域社会における DV 加害者対応」(対人援助学会対人援助学マガジン 15 (2))20-29頁	2024. 9
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (46) 社会病理学と臨床社会学」(対人援助学会対人援助 学マガジン 15 (3))20-29頁	2024.12
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (47) 隣人のもつ力—日常から生成する脱暴力のエコロ ジー」(対人援助学会対人援助学マガジン 15 (4))22-31頁	2025. 3
浪田 陽子	その他 (単独講演)	「学校教育における メディアリテラシーの重要性を考える」(第22回京都府 私立中学高等学校教育研究大会，メディアと教育分科会)	2024.10
根津 朝彦	著書(共訳)	『ベン・ブラッドリー自伝—『ワシントン・ポスト』を率いた編集主幹』(共 訳書)(法政大学出版局)	2025. 2
	論文	「日本ジャーナリスト会議 (JCJ) の戦後ジャーナリズム史研究 (1)—吉野源 三郎議長の新創期」(『立命館産業社会論集』第60巻第2号)45-64頁	2024. 9
	研究発表等	「小川プロダクション電話連絡ノート全39冊の意味と可能性」(三里塚アー カイブ定例研究会 (Zoom 開催))	2024.11
	その他研究 活動(単独)	「学生時代の問題意識から戦後日本ジャーナリズム史研究に至る歩み」(同 志社大学大学院社会学研究科「メディア社会論」ゲスト講義)	2024.12
	その他研究 活動(共同)	インタビュー記事「「ウォーターゲート」報道指揮 ベン・ブラッドリー自伝 巨悪と対峙新聞人の良心」(『読売新聞』2025年3月6日付夕刊 (大阪本社 版))	2025. 3
野原 博人	研究発表等	「非認知能力を育成する学習環境のデザインに関する研究—科学概念構築 における非認知能力と認知能力の融合—」(日本理科教育学会第74回全国大 会)	2024. 9
	研究発表等 (単独)	「エージェンシーを育成する学習環境のデザイン—メタ可視化による心理 的道具の創造と科学概念の構築—」(有泉翔太・野原博人，日本理科教育学 会第74回全国大会)	2024. 9
	研究発表等 (単独)	「拡張的学習によるエージェンシーの育成—メタ可視化を方略とした理科 授業デザイン—」(真田順平・野原博人，日本理科教育学会第74回全国大会)	2024. 9
	研究発表等 (単独)	「自己調整学習によるエージェンシーの育成—適切な自己決定を促すアセ スメントとフィードバック—」(山口義亮・野原博人，日本理科教育学会第 74回全国大会)	2024. 9

野原 博人	研究発表等 (単独)	「VR 技術を活用した理科教材の開発とその学習効果の検証」(野原博人・深谷新, 日本科学教育学会第48回年会)	2024. 9
長谷川千春	著書(共著)	『現代財政とは何か』(河音琢郎・栗田但馬・篠田剛編著, 税務経理協会)113-128頁	2024.11
	著書(共著)	「『社会保障』(新・MINERVA 社会福祉士要請テキストブック3)」(木下武徳・嵯峨嘉子・所道彦 編著, ミネルヴァ書房)63-83頁	2025. 3
	著書(共編者 (共編著者))	「日本の社会保障システム—理念とデザイン【第2版】」(吉田健三・木下武徳・加藤美穂子・長谷川千春, 東京大学出版会) 1-272頁	2024. 4
樋口 耕一	論文(単著)	「計量テキスト分析ツール KH Coder による分析結果の再現性: KH Coder による再現と R・SPSS による再分析や検算」(立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第60巻第2号)121-130頁	2024. 9
	論文(共著)	「KH Coder によって再現可能性を維持しつつ生成 AI から解釈のヒントを得る計量テキスト分析」(周 景龍・中村 康則・樋口 耕一, 一般社団法人 日本教育工学会日本教育工学会研究報告集 2024 (4))274-281頁	2024.12
日暮 雅夫	論文(単著)	「ハーバースとホネットの理論の今日的到達点を確認する——社会と対峙する「再構成的批判」——成田大起著『「批判」の政治理論』(図書新聞) 5 頁	2024. 4
	論文(単著)	「批判理論のアメリカにおける一〇〇年—権威主義的主体の生成と解体—」(岩波書店思想 (1208))38-53頁	2024.12
	論文(単著)	「日本におけるフランクフルト批判理論の受容と展開 (1)」(NGO 市民科学京都研究所市民科学通信 (58))	2025. 3
	研究発表等 (単独)	「コメント「フランクフルト学派の転換はどのようなものだったのか? ——八木紀一郎「フランクフルト学派におけるマルクス主義と希望—ホルクハイマー所長就任前後の「社会研究」の転換—」を読む」」(経済理論学会)	2024. 9
日高 勝之	論文(単著)	「地域、記憶とアイデンティティの諸課題を21世紀に考えるために——「ボカシ」「複数性」「分人主義」「メタ正義」の視点から——」(日本コミュニケーション研究 53 (2))127-136頁	2025. 1
	論文(共著)	「第53回日本コミュニケーション学会年次大会 シンポジウム 地域と記憶」(日高勝之・赤坂 憲雄・河合 優子・藤巻 光浩, 日本コミュニケーション研究 53 (2))95-110頁	2025. 1
	論文(単著)	「ラクラウ & ムフ著 Hegemony and Socialist Strategy: Towards a Radical Democratic Politics は、なぜ政治コミュニケーションを考えるうえで今も読まれるべきなのか」(日本コミュニケーション研究 53 (2))143-147頁	2025. 1
	研究発表等	「Hegemony And Socialist Strategy: Towards A Radical Democratic Politics コミュニケーション学を考えるための一冊」(日本コミュニケーション学会第53回年次大会)	2024. 6
	研究発表等	「地域、記憶とコミュニケーション」(日本コミュニケーション学会第53回年次大会)	2024. 6
	研究発表等	「学生の司会進行によるゼミ運営の試み〜コロナ禍の教訓から〜」(第10回映像メディアと公共性研究会)	2024. 9
	その他研究 活動(単独)	(雑誌インタビュー)「親子で育むメディア・リテラシー」(雑誌『灯台』2024年11月号掲載)	2024.10
	その他研究 活動(単独)	(新聞インタビュー)「メディアのあり方問う〜テロ報道の葛藤 映画『セブテンバー 5』」(『毎日新聞』(夕刊))	2025. 2

藤嶋 陽子	著書(共編著)	『広告文化の社会学 ―メディアと消費の文化論』(宮崎悠二・藤嶋陽子・陳海茵編著, 北樹出版)	2024.10
	論文(単著)	「デジタル時代のファッション論: メディアを介した『凡庸なファッション』をめぐる経験」(東京大学博士論文)	2025. 3
	その他 (共同講演)	「ファッションの現在形と、ルールデザイン」(海老澤美幸、川崎和也、藤嶋陽子, CCBT COMPASS 2024)	2024. 5
前田 信彦	研究発表等 (単独)	「労働と天職: 職業キャリアにおける霊性 (スピリチュアリティ) の意義」(仙台北百合女子大学カトリック研究所 合同オンラインシンポジウム)	2024. 8
	研究発表等 (共同)	「天職 (コーリング) と霊性 (スピリチュアリティ): カトリック教育への示唆」(日本カトリック教育学会 第48回全国大会 (於: ノートルダム清心女子大学))	2024. 8
増渕あさ子	著書(単著)	『軍事化される福祉―米軍統治下沖縄をめぐる「救済」の系譜―』(インパクト出版会) 1-316頁	2025. 2
	研究発表等 (単独)	「支配／抵抗としてのケア: 沖縄米軍統治期の社会福祉を再考する」(日本社会福祉学会第71回秋季大会)	2024.10
	研究発表等 (単独)	「米軍占領と衛生: ハンセン病政策と公衆衛生看護婦制度から考える」(第7回沖縄社会学会)	2024.12
	研究発表等	「臨床の場にあらわれる戦争の記憶と徴候: 沖縄の「戦後」／米軍統治下の医療福祉の現場から考える」(Communities after Disasters: daptation to and Recovery from Catastrophe, Chosun University)	2025. 1
	研究発表等 (単独)	「日米帝国のはざまで―ハワイ沖縄移民の沖縄戦と救済運動」(トランスインペリアル・ヒストリー 公開ワークショップ)	2025. 3
松岡 宏明	著書(共著)	文部科学省検定済教科書 中学校『美術1』(松岡宏明他26名, 光村図書出版) 1-69頁	2025. 2
	著書(共著)	文部科学省検定済教科書 中学校『美術2・3』(松岡宏明他26名, 光村図書出版) 1-107頁	2025. 2
	論文(単著)	「ループリックを活用した美術鑑賞学習指導と評価」(公益財団法人教育美術振興会『教育美術』990 (12月号)) 34-39頁	2024.12
	その他研究 活動(共同)	「[資料] 2000年以降の三学会学会誌に掲載された研究論文数と鑑賞学習指導に関する研究論文情報」(松岡宏明 (代表) 他4名, 『美術教育』309号, 日本美術教育学会)	2025. 3
	その他研究 活動(単独)	「書評: 井奥陽子著『近代美学入門』筑摩書房」(『美術教育』309号, 日本美術教育学会)	2025. 3
	その他 (単独講演)	「台湾児童美術教育学会 招待講演」(国立屏東大学)	2024. 5
	その他(共同)	「中華民国第55回世界児童画展審査会」審査	2024. 5
	その他 (単独講演)	「日本美術教育学会学術研究大会静岡大会 第6回研究論文・実践報告の書き方初級セミナー」(日本美術教育学会学術研究大会静岡大会)	2024. 8
	その他 (単独講演)	「一般社団法人 大阪府私立幼稚園連盟主催 南京阪支部研修会」	2024. 8
	その他(単独)	「第76回全国造形教育研究大会 滋賀大会 指導助言」	2024.10
	その他(単独)	「第78回和歌山県図工・美術教育研究大会 指導助言」	2024.11
	その他(単独)	「令和6年度兵庫県造形教育研究発表尼崎大会 指導助言」	2024.11
	その他 (単独講演)	「大阪府私立幼稚園連盟主催研修会 教材研究シリーズ研修会「造形表現」」	2024.11

松岡 宏明	その他 (単独講演)	「山陽小野田市保育士会研修会 造形研修」	2024.11
松田 亮三	論文(単著)	「書評：杉田米行『国際関係の変動と日本医療保険制度史』」(いのちとくらし研究所報 (88))72-74頁	2024.10
	研究発表等 (単独)	「極東アジアにおける医療機構—状況把握的なレビュー」(日本医療福祉政策学会 2024年度 (第8回)研究大会)	2024.11
	研究発表等 (共同)	“Awareness and policy responses to ‘young carers’ in Japan: changes in the last decade” (Matusda,R. and Saito, M., International Postgraduate and Academic Conference 2025)	2025. 2
	研究発表等 (単独)	「極東アジアにおける医療機構—今後の比較研究の深化に向けて」(多様化する社会における福祉体制の動態研究会)	2025. 3
	その他 (単独講演)	「社会保障と医療」(大阪府看護協会 認定看護管理者教育課程セカンドレベル)	2024. 6
	その他 (単独講演)	「日本社会の変化と 保健医療の課題～その中で保健師に求められること～」(第47回近畿地区市町村保健師研修会)	2024.11
	その他 (単独講演)	「社会保障と医療」(大阪府看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修)	2024.11
松本麻友子	著書(分担執筆)	『保育職・教職をめざす人のための保育用語・法規』(戸江 茂博・隈元 泰弘・広岡 義之・猪田 裕子 (編), ミネルヴァ書房) 3-288 (一部)	2025. 3
	論文(共著)	「非意識的な育児への態度を測定する育児SC-IATの作成と検討」(中島奈保子・小林佐知子・松本麻友子, 愛知学院大学心理学部紀要)41-58頁	2025. 3
	研究発表等 (共同)	「内受容感覚と将来の育児への態度との関連」(中島 奈保子・松本 麻友子・小林 佐知子・榊原 雅人, 日本心理学会 第88回大会)	2024. 9
	研究発表等 (単独)	「スマートフォンアプリケーションを用いた抑うつ予防のための心理教育プログラムの効果検証」(日本心理学会 第88回大会)	2024. 9
	研究発表等 (共同)	「子どもとの接触経験と内受容感覚が親性準備性に与える影響」(中島 奈保子・松本 麻友子・小林 佐知子・榊原 雅人, 日本発達心理学会 第36回大会)	2025. 3
	その他 (単独講演)	「学校で教育心理学は何ができるのか?—学校現場における今後の可能性—」(第61回道徳教育研究会)	2024. 8
水沢 光	著書(単著)	『日本の戦時科学技術動員体制：軍産学連携と研究助成の制度化』(吉川弘文館) 1-262頁	2024.11
	論文(単著)	「参考資料としてのデジタルアーカイブ：国立公文書館アジア歴史資料センターの事例—小特集 大学アーカイブス・デジタルアーカイブス所蔵資料と科学史研究」(東京：日本科学史学会；2014- 科学史研究. [第Ⅲ期] = Journal of history of science, Japan. [Series Ⅲ] / 日本科学史学会 編 (309))64-67頁	2024. 4
	論文(単著)	「研究助成の制度化と戦後への連続：科学研究費交付金の人文科学への拡大を中心に—特集 戦間期～戦時期における学術研究の基盤形成」(京都：日本史研究会日本史研究 = Journal of Japanese history / 日本史研究会 編 (743))22-35頁	2024. 7
三笥 利幸	論文(単著)	「マックス・ヴェーバーの描くベンジャミン・フランクリン——「理念型」としての歴史的叙述を理解する」(『唯物論研究』第169号)	2024.11
	論文(単著)	「リチャード・バクスターとは何者か ——『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』における位置づけをめぐって」(『立命館産業社会論集』第60巻2号)23-44頁	2024. 9

宮尾 万理	論文(単著)	“Grammatical role, thematic role, and coherence relation in the L2 production of discourse” (Ritsumeikan Social Sciences Review 60(4)) 33-48 頁	2025. 3
村田 観弥	研究発表等	「特別支援教育がインクルーシブ教育に変わるための戦略的諸提案—国連勧告から考える「インクルーシブ教育システム」の軌道修正—」(日本教育学会第83回大会 (於：名古屋大学・Web 開催))	2024. 8
柳原 恵	著書（共編者（共編））	『日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム』(水口 良樹・柳原 恵・洲崎 圭子, 中南米マガジン日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム)	2025. 3
	論文(単著)	「聞き書きが拓く地域女性史」(東京：歴史科学協議会歴史評論 = Historical journal / 歴史科学協議会 編 (892))17-28頁	2024. 8
	論文(単著)	「共に闘わん!：ウーマンリブにおける生理用品無料設置要求運動の活動と思想」(東京：青土社現代思想 52 (18))162-176頁	2024.12
	その他(単著)	「女性史の実践がもたらすエンパワーメント」(ウィラーン (4)) 3 頁	2024. 4
	その他(単著)	「戦争と家父長制に抗う女（おなご）たち」(東京：エトセトラブックスエトセトラ—特集 戦争をやめる 12)44-45頁	2024.11
	その他(単著)	「夢想し、行動する—『私の想う国』が映すチリの現在」(映画パンフレット『私の想う国』)36-38頁	2025. 1
	その他(単著)	「チリ・女子学生たちが引き起こしたフェミニズムの「津波」」(前掲『日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム』)	2025. 3
	その他(監訳)	カリーナ・アウマーダ・パイラウエケ (訳 三島玲子, 監訳 柳原恵・洲崎圭子・水口良樹)「プダウエル区（チリ、サンティアゴ）における マプーチェ・フェミニズムの出現に関する考察」(前掲『日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム』)	2025. 3
	その他(単独講演)	「女性史にみるフェミニズム運動の可能性—新しい視座から歴史を掘り起こす」(連続講座 生きるための「なぜ?」を考えるフェミニズム講座2024)	2024. 9
	その他(単独講演)	「地方におけるフェミニズムって? ～戦後日本、岩手から声を上げた女性たち～」(3.5seed 明日のための時間)	2024.11
	その他(単独講演)	「孕みの思想と産の思想—女性の身体経験から思想を産む—」(第192回ともに公共する (生命開新)美学をともにデザインする只人の学び場)	2025. 3
藪 耕太郎	論文(共著)	“Ad Santel Is Coming to Town : The 1921 Yasukuni Shrine ‘MMA Fights’ between Catch Wrestling and Kōdōkan Judo” (Yabu, Kōtarō, Andreas Niehaus, INTERNATIONAL JOURNAL OF THE HISTORY OF SPORT 41(4)) 355-373頁	2024. 5
	研究発表等(単独)	「柔道の海外伝播における「興行試合」の位相—1910年代アメリカ西海岸における伊藤徳五郎の事例から」(第38回スポーツ史学会)	2024.12
	研究発表等(単独)	“Reading MMA matches from Itō Tokugorō’s private photo collection: Jūdō vs. Western Martial Arts in North and Central America from the 1910s to 1920s” (Encounters between Japanese Budo and Western Combative Sports: Cultural Confrontation and Exchange through Interdisciplinary Matches)	2025. 3
	その他研究活動(共同)	「第2回スポーツ科学研究会」(奈良女子大学)	2025. 3
山田 宗寛	論文(単著)	「【発達保障の源流】絵を描く落穂寮児の歩いてきた道 彼らは如何にして描くようになったか 岡山喜久治 (62)」(人間発達研究所紀要 (38))	2025. 3

吉田 誠	論文	「戦後初期における先任権移植政策の展開と労使の対応」(『立命館産業社会論集』第60巻第1号)177-193頁	2024.6
	研究発表等	「年功概念と先任権に関する一考察」(日本労働社会学会第36回研究大会)	2024.10